

シンガポール・アセアンショーが拡大開催

実質的に中国、インドネシア、ベトナムの開催形態へ

目立つ、アジアンスタイル、アンティークのリモデル

品質・スタイル一段向上 リーズナブル製品が主力

アジアの家具産業は生産主導と消費圏の流通のハブ(拠点基地)を狙った二つの見本市へと流れを強めてきた。その後者と世界市場へ向けた重要な家具見本市が三月一日から五日、シンガポールエキスポ(貿易国際展示場)で開かれた。

第二十三回シンガポール国際家具見本市及びアジアアセアンショーは、同シ



インドネシアパビリオン



ベトナムパビリオン



中国の古典家具ブース

ルの地の利、広大なパビリオンが可能な整備される環境が強みだ。(長島)

六に二十七社(総出展三十四社)のパビリオンを構えた。

出展者数でみる主な出展国の中でインドネシアが突出、同国の家具産業の総力を挙げたかたちでホール二にパビリオンを構えた。またベトナムがホール一(ほぼ過半を占め、昨年より二平方メートル、二千二百平方メートル、十七社が出展、他に十社がホール六までのブースへ個別出展した。

中国はパビリオンを構成せず、個別に三から六ホールまで個別に出展、ディスプレイに注力した広いブースにソファを主にダイニング、リビングテーブルを展開した。ウエイトは古典家具でトラディショナル、カントリーテイストのリモデルが目

立った。他では同ショーに先駆けて開催したフィリピンが三十九社、アメリカ三十四社の出品が目立った。アメリカはカリフォルニア・ファニチャー・エキスポ(ステファント・ワイズ社長)がホール六へ広大なブースを取って初出展、ソファをアジア市場へ訴求した。

シンガポールの地勢が今ほど感じられたショーはなかったが、とりわけ十五日から六年ぶりに台北国際家具見本市を開催する台湾の台湾区家具工業同業公会が、ホール

第三種郵便物認可

旬刊

ムラゴ

設備の専門紙

本紙へのお問い合わせは—
03-3872-8610

平成18年

3月15日(水)
第1312号

東京都台東区浅草6-3-10

今号の記事から

の上質。

03-3862-6711
uga.co.jp